

# 実践記録 シリーズ 66

## 第54回新潟県公民館大会 実践事例発表3から 子どもと地域をむすぶ公民館

糸魚川市糸魚川公民館 副主事 山本明美

### 1 はじめに

地域や家庭の教育力の低下が指摘されるようになって久しいですが子どもを静かに見守り、はぐくむことのできる風土、子どもがさまざまなことを体感・体験できる土壌がその教育力の要素でないかと思えます。ここに発表する実践例はなにも目新しいことではなく、以前は自然な形で子どもをはぐくんできたものではないかと思っています。

公民館の事業としてより、地域で繰り広げようとするものを公民館がちょっと支援できて、一緒に達成感を感じさせてもらったといった方がよいのかもしれない。

### 2 Iプランの策定と青少年事業の見直し

糸魚川市は国の「教育改革」の取り組みに先駆け、新たな教育施策の方向を踏まえ、子どもたちの自立を促し、個性を伸ばし、社会性をはぐくむといった願いのもと、『子どもの未来をひらくI(アイ)プラン』を平成13年11月に策定しました。

- I子どもの夢と希望をはぐくむ学校づくり
- IIともにはぐくみ、ともに学ぶ家庭・地域づくり
- IIIともに支えるネットワークづくり

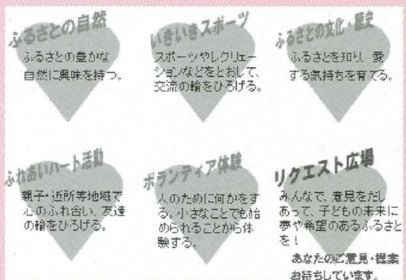
の3つの柱から構成されております。

(ちなみに、Iプランの「I」とは、①子どもの「生きる力」②ふるさと「いとがわ」③子どもへの「愛」にかけてネーミングしております。)

それを受けて、糸魚川公民館として「Iプラン」をどのように理解し、取り組むか。また、青少年活動・事業の実施に向けてどのような展開ができるか検討しました。

まず、これまで実施してきた事業の見直し作業をしました。公民館の青少年事業と事務局をしている青少年健全育成協議会の事業を予算とともに一本化し、「Iプラン事業」と位置づけました。

つぎに、公民館の青少年部・育成指導員・体育指導委員・青少年健全育成協議会・小中学校等に呼びかけ、新たに「Iプラン検討委員会」を立ち上げ「Iプラン事業」の主旨と公民館が取り組む内容を示し、検討していただきました。(H15.2.19Iプラン反省会も開催済)



また、毎月10日に発行している地区内全戸配布の「糸魚川公民館だより」に掲載しました。6つのジャンルに分けた事業内容の最後に「リクエスト広場」と称して地区民の中での要望・提案を待ち受けたところ、囲碁教室と絵本読み聞かせ教室が手を挙げてきたのです。

### 3 囲碁教室について

※大会資料P.26参照。

### 4 絵本読み聞かせ教室「はらべこあおむし」について

活動日：毎月第1木曜日 10:00～11:30

会場：糸魚川公民館 和室

対象：0歳～3歳の乳幼児とその保護者

その他：指人形鑑賞・クリスマス会

事業主体：絵本読み聞かせの会：はらべこあおむし

※会の名称「はらべこあおむし」はエリック・カールの同名の絵本から名づけています。

やがて、大きく美しい蝶となって飛び立つことに願いを込めております。

この事業の取り組みについての企画書は下記のとおりです。

平成14年度Iプラン事業の取り組みについて  
事業名 絵本読み聞かせの会

対象者 0歳から3歳までの乳幼児とその親及び妊産婦

ねらい

- ・絵本の読み聞かせを通して、親と子のつながりを深める。
- ・親同士のつながりをもち、絵本を通して子育ての幅をひろげる。
- ・親と子どもの心を豊かにする。

事業内容

日時	原則として毎月第1木曜日(初回：5月9日) 10:00～11:30
会場	糸魚川公民館 和室
主催	糸魚川公民館 担当：山本 会代表：朝日仁美(上列2-6-1)
内容	絵本の読み聞かせ
周知	・糸魚川公民館だより掲載済 ・ポスター掲載済 (市内小児病院・保健センター・まがたま・アクアホール・図書館・保育園・支館等) ・チラシ作成し、育児サークル等へ送付
運営	①会員の自主運営とする。スムーズな運営が出来るまで糸魚川公民館が支援する。 ②市民図書館から20冊の絵本を団体登録カード貸出する。本の選定については、そのつど、会員があった。 ※団体登録済(登録名：はらべこあおむし) ③活動日に使用した本は、糸魚川公民館のポストで返却する。 ④予算の必要が生じたときは糸魚川公民館に相談する。
予算	①糸魚川市平成14年度公民館子ども活動事業の委託金 30,000円 ②糸魚川公民館予算事業費 青少年活動費 (Iプラン乳幼児対象) 20,000円 但し、糸魚川公民館予算については、市委託金が不足したときのみ執行する。
その他	糸魚川公民館和室を乳幼児に安全な環境に設定する。

なお、この事業はIプランのリクエスト事業として実施する。また、市民図書館の特段の支援による。

福祉や保健の分野でも子育て支援事業としても、絵本の読み聞かせはちょっとしたブームで全国的に繰り広げられております。

この会は、2歳児を持つ母親からの要望でした。市民図書館でも読み聞かせは既に開催しているのですが、対象年齢が高く、乳幼児対象のものを立ち上げたいとのことでした。

彼女は、横浜から嫁ぎ、いわゆる「よそ者」として糸魚川の風土については少々懐疑的でした。そんな「よそ者」が会を立ち上げることが

できるか強い不安を持っていました。

- ①無理をしないうこと、立ちいかなくなったらいつ会を閉じてもいい。
- ②一人でがんばり過ぎないこと。
- ③会の趣旨に賛同し協力できる仲間・スタッフになってくれる人を探す。

などアドバイスし、とにかくやってみよう、うまくいかなかったその時に考えようということ、平成14年5月9日スタートしました。初回は20数組47名の親子が参加し、少ないときでも12・3組20数名が参加しております。

先に開催している青海町の「アイアイ」のスタッフの支援もあり、また、参加者の中で企画・運営に参画してくれる方も数名確保でき、さっそくスタッフ会議を開き今後の活動計画等話し合われました。

スタッフ自体が会の立ち上げ・運営等について、経験したことがないので、そのノウハウや予算などについて随時相談を受けたり、あるいは個人的に子育てや家族等の相談を受ける場合もあります。

現在は月に1回の会報を出し、子育て支援センターや家庭相談員等の支援もありコンスタントに活動できております。



クリスマス会

はじめてみるサンタさんに泣き出す子続出！  
サンタさんも汗びしょり！  
プレゼントはもちろん絵本です。  
記念写真をハガキに焼いて、クリスマスカードで参加者に送付しました。大好評でした。

### 5 事業の評価反省と今後の課題

この事業をとおして地域の中の異世代、特に若い世代の母親たちとの交流は公民館にとっても大きなインパクトを与えました。館に響く幼児の騒ぎ声・泣き声さえ新鮮で、利用者との交わす会話にも和やかな雰囲気があったよ公民館が活性化したような感がありました。また、全戸配布の「糸魚川公民館だより」に事業の状況を掲載し紙面をうるおしております。

なによりもよかったと評価したことは、会の自主運営がしっかりなされ、適時に公民館のサポートも生かされてきたことです。

また、青少年健全育成協議会との事業と公民館の青少年事業を一本化する結果により、過去に実施して労多くして成果のあまり上がらなかった事業、それも踏襲継続されてきた事業の思い切った廃止や現在の地域環境にあった新規の事業の立ち上げ作業がやりやすくなったこともよかった点です。

Iプランが学校や地域またその支援のネットワークの中でよりよい子どものはぐくみができるよう地域と子どもをむすぶ役割の大切さを、公民館を支える各支館・事業推進員等により一層周知することも今後の課題の一つです。

この子どもと地域を考えるとき、公民館が今ではあまり聞かれなくなった、ややもすると忘れ去っていた感のある『社会教育の現場』であると再認識せざるを得ませんでした。

広く地域を見、人を知り、自然資源の活用ばかりでなく、地域に住んでいる人的資源の活用をいかに発掘し、地域の活動に結び付けていか、また、「子どもと地域をむすぶ公民館」としての役割と公民館自体が地域の有効な資源として存在できたらと考えております。